PRESS RELEASE
2019年9月19日

積水ハウス株式会社

日本の育休実態を徹底調査！
47都道府県の20代～50代の「パパ・ママ」9,400人に聞く
「イクメン白書 2019」を発表

積水ハウスは、男性の育児休業取得がよりよい社会づくりのきっかけとなってほしい、という思いから、9月19日を「育休を考える日」として記念日に制定します。これに先駆け、企業で働く男性の育休取得実態を探るべく全国の小学生以下の子どもを持つ一般の20代～50代の男女9,400人を対象とした調査を実施し、「イクメン白書」を発行しました。（サイトURL：https://www.sekisuihouse.co.jp/ikukyu）

一般の方の調査に加え、当社の男性育児休業取得者のアンケート結果も併せてご紹介します。

■ イクメン力（りょく） 全国ランキング発表。1位「島根県」 2位「沖縄県」 3位「鳥取県」
■ 自身の考えるイクメンポイントから浮かび上がる、夫の考えていること・していること
■ 男性の育休取得に8割が「賛成」も、実際の取得率は9.6%。一方、取得した人の満足度は高い

■ イクメン力全国ランキング発表。1位「島根県」2位「沖縄県」3位「鳥取県」

「イクメン力」が高い都道府県は、**1位 島根県**　**2位 沖縄県**　**3位 鳥取県**という結果になりました。

「イクメン力」の指標として、①配偶者評価（夫が行う家事・育児の数、夫はイクメンと思うか）　②育休取得日数　③家事育児時間　④家事育児参加幸福感の4つの基準を設け、ポイント算出により都道府県ランキングを作成しました。

■自身の考えるイクメンポイントから浮かび上がる、夫の考えていること・していること

夫、妻それぞれに「イクメンだと思うポイント」を聞くと、1位「子どもと一緒によく遊ぶ」、2位「子どもをお風呂に入れる」までは同じでしたが、3位は「妻の育児の不安や愚痴を聞く」（妻）、「家族のために我慢をする」（夫）となりました。父親が家族のために考え、努力している様子が見受けられます。

■ 男性の育休取得に8割が「賛成」も、実際の取得率は9.6%。一方、取得した人の満足度は高い

男性の育休制度には男女ともに8割以上が「賛成」するも、「取得したい」夫 60.5%、「夫に取得させたい」妻 49.1%にとどまっており、実際に1日以上の育休を取得したのは全体の1割（9.6%）のみという結果になりました。

また、育休を取得した男性の77.0%が取得前に不安があったと答えていますが、育休取得に対する職場の協力体制は「協力的」68.7%、育休制度に「満足した」71.2%、と、思い切って取得してよかったと感じた人が多いようです。一方、取得しない理由としては「制度が整備されていない」「取得しにくい雰囲気」「周囲に迷惑」「給料が下がる」などが挙げられました。

積水ハウス株式会社は、子育てを応援する社会を先導する「キッズ・ファースト企業」として、男性社員の育児休業1カ月以上の完全取得を目指し、2018年9月よりイクメン休業制度の運用を開始しました。制度運用開始から1年経過後の2019年8月末時点で、取得期限を迎えた対象者253名が100%完全取得を達成しました。

SLOW & SMART
ゆっくり生きてゆく、住まいの先進技術。

【本件についてのお問合せ】　積水ハウス株式会社　広報部
（大阪）TEL　06-6440-3021　（東京）TEL　03-5575-1740
（本社）大阪市北区大淀中1-1-88　梅田スカイビル　タワーイースト

ECO FIRST

〈発表！イクメンカ 全国ランキング〉

■ **日本一のイクメン県は「島根県」。育児実践数や育児時間など妻からの評価も高め**

イクメン力が高いイクメン県は、1位「島根県」205点、2位「沖縄県」194点、3位「鳥取県」180点となりました。各部門別のTOP3は、総合1位の「島根県」が家事・育児の実践数、妻が評価する夫のイクメン度、夫の家事育児時間でもトップとなっています。

島根県 1位 205点

夫が行う家事育児の数	1位	7.91個
夫はイクメンと思うか	1位	＋0.65
育休取得日数	28位	1.91日
家事育児時間	1位	18.21時間/週
家事育児参加幸福感	4位	＋1.06

沖縄県 2位 194点

夫が行う家事育児の数	2位	7.20個
夫はイクメンと思うか	9位	＋0.13
育休取得日数	5位	4.52日
家事育児時間	7位	13.14時間/週
家事育児参加幸福感	23位	＋0.89

鳥取県 3位 180点

夫が行う家事育児の数	3位	6.82個
夫はイクメンと思うか	7位	＋0.15
育休取得日数	9位	3.69日
家事育児時間	4位	13.50時間/週
家事育児参加幸福感	37位	＋0.76

島根県 Shimane Prefectural Government

島根県 健康福祉部子ども・子育て支援課よりコメント

「この度の調査で島根県が日本一のイクメン県に選ばれたことを光栄に思います。特に家事育児時間が週当たり18.21時間と、政府目標の150分/日を上回ったことに喜びと驚きを感じています。島根県は、働いている女性の割合が74.6%と全国１位（H27国勢調査）で、結婚や子育ての時期を迎えても働く女性は多いですが、その背景にはイクメンの存在があるのかもしれません。今後とも仕事と家庭の両立を支援することで、男性の育休取得が進むよう努めてまいります。」

順位		総合得点	順位		総合得点	順位		総合得点	順位		総合得点
1位	島根県	205	13位	山梨県	149	25位	香川県	112	37位	京都府	83
2位	沖縄県	194	14位	群馬県	148	25位	北海道	112	38位	東京都	82
3位	鳥取県	180	14位	岡山県	148	27位	奈良県	102	38位	富山県	82
4位	和歌山県	179	14位	熊本県	148	28位	滋賀県	100	40位	岐阜県	82
5位	三重県	177	17位	栃木県	146	29位	福岡県	98	41位	静岡県	80
6位	宮崎県	172	18位	新潟県	142	30位	徳島県	97	42位	山口県	77
7位	兵庫県	161	19位	埼玉県	139	31位	茨城県	94	43位	岩手県	74
8位	山形県	157	20位	福島県	130	31位	大分県	94	44位	愛媛県	72
9位	宮城県	156	21位	秋田県	129	33位	青森県	90	45位	愛知県	69
9位	長野県	156	22位	長崎県	126	34位	千葉県	89	46位	石川県	68
11位	福井県	154	23位	鹿児島県	125	35位	大阪府	86	47位	広島県	17
12位	神奈川県	150	23位	高知県	125	36位	佐賀県	84			

■ **積水ハウスが独自に設定した男性の「イクメン力」の基準となる4つの指標**

積水ハウスでは、右図の4項目を男性のイクメン力の指標として設定しました。1つめは配偶者からの評価で、夫が行っている家事・育児の数と、夫がイクメンと思うかどうか（4段階評価）の2項目です。2つめは育休の取得経験で、取得日数が基準となります。3つめは、夫の家事・育児を行う時間で、夫の自己申告ではなく妻から見た夫の家事・育児時間を基準とします。4つめは夫本人に育児に参加して幸せを感じているかどうかを4段階で聞き、本人の育児幸福感を基準とします。これら5項目4指標をそれぞれ数値化して47都道府県別にランキングし、1位：47点、47位：1点を付与し、各項目の点数を足し上げることで、都道府県別のイクメン力を算出しました。

部門別TOP3	夫の普段の家事・育児実践数（個）		妻が評価する夫のイクメン度		夫の育休取得日数（日）		夫の家事・育児時間（時間/週）		家事・育児に幸せを感じる夫	
1位	島根県	7.91	島根県	0.65	和歌山県	9.52	島根県	18.21	群馬県	1.13
2位	沖縄県	7.20	和歌山県	0.26	兵庫県	7.48	福井県	14.00	福岡県	1.09
3位	鳥取県	6.82	三重県	0.23	長野県	6.02	山形県	13.59	宮城県	1.07
全国平均		5.44		-0.03		2.36		11.06		0.91

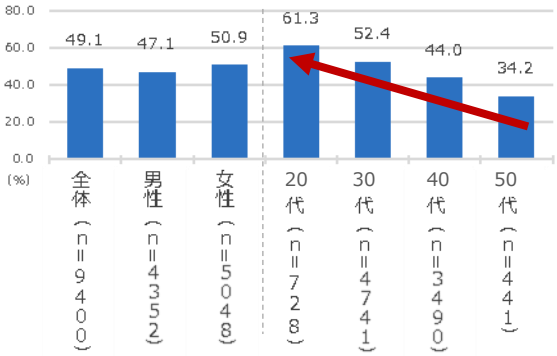
〈イクメン意識の実態〉

■ 平成世代にとってイクメンはもう常識。イクメン意識は昭和世代の約2倍に

イクメン意識を探ると、男性47.1%が「自分はイクメンだと思う」、女性50.9%が「夫はイクメンだと思う」と答え、日本の夫婦の半数は「パパはイクメン」と自他共に認識しています。性・年代別に見ると、20代のイクメン意識が61.3%と最も高く、年代とともに低下し50代では34.2%と20代の半数近くまで低下しています［図1］。

昭和世代には定着しなかったイクメンですが、平成世代の子育て参加意識は確実に高まっているようです。

［図1］イクメン意識



■ 自称イクメンの約4割が家族のために我慢している?!

夫がイクメンと答えた妻に夫のイクメンポイントを聞くと、「子どもと遊ぶ」、「子どもとお風呂」、「妻の育児の不安や愚痴を聞く」がTOP3に挙げられました。一方、イクメンを自認する夫に自身のイクメンポイントを聞くと2位までは妻と同じですが、3位は「家族のために我慢をする」となり、イクメンを自認する男性の4割以上（43.8%）が、家族のために何らかの我慢をしています［図2］。忍耐が必要になることも多い育児と本気で向き合い、家族のために努力している父親の姿がうかがえます。

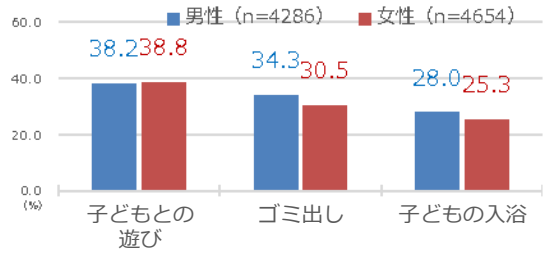
［図2］イクメンポイントTOP3

妻が思う 夫のイクメンポイント (n=2568)		夫が思う 自身のイクメンポイント (n=2049)	
子どもと一緒によく遊ぶ	75.1	子どもと一緒によく遊ぶ	64.3
子どもをお風呂に入れる	58.5	子どもをお風呂に入れる	49.1
妻の育児の不安や愚痴を聞く	42.1	家族のために我慢をする	43.8

■ イクメンの家事・育児3大定番「子どもと遊ぶ」「ゴミ出し」「子どもの入浴」

夫が行う家事・育児の中で得意なものを聞くと、夫は「子どもとの遊び」（38.2%）、「ゴミ出し」（34.3%）、「子どもの入浴」（28.0%）がTOP3となりました。妻に夫が得意な家事・育児を聞くと、こちらも「子どもとの遊び」（38.8%）、「ゴミ出し」（30.5%）、「子どもの入浴」（25.3%）となり、夫婦の意見が一致しています。これらはイクメンの3大定番家事・育児といえそうです［図3］。

［図3］夫が得意な家事

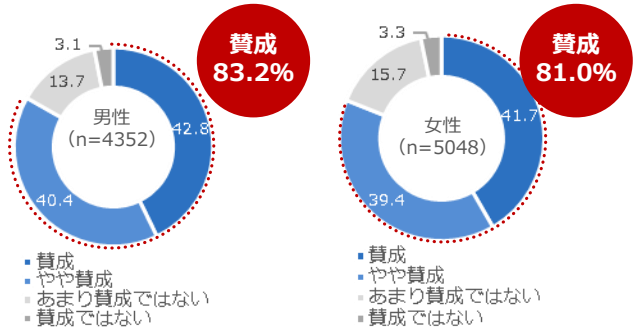


〈育休取得の実態〉

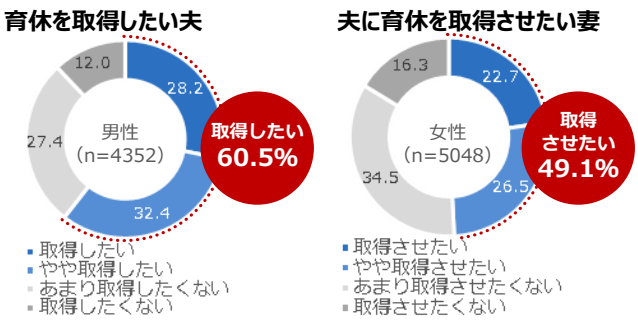
■ 男性の育休制度に8割が賛成！ しかし、実際に取得するとなると男女ともにやや消極的

男性の育休制度について聞くと、男女ともに8割以上（男性83.2%、女性81.0%）が「賛成」しています［図4］。しかし、実際の育休取得となると、育休を「取得したい」と答えた男性は60.5%、「夫に育休を取得させたい」と答えた女性は49.1%と少なくなっています［図5］。

［図4］男性の育休制度に対する意見



［図5］男性の育休取得に対する意見



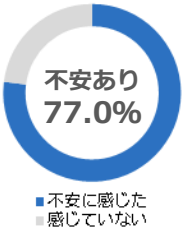
〈育休取得の実態〉

■ 男性の育休取得者の8割近くが取得前に不安を感じている

今回の調査で育休を取得していたのは全体の9.6%でした。彼らに育休前に不安に感じていたことを聞くと、「職場で周囲に迷惑をかけてしまう」「給料・手当が下がり、生活に影響が出る」「引き継ぎがうまくいくかどうか」などが上位に挙げられ、77.0%が「何らかの不安を感じた」と答えています［図6］。これらの不安を感じた人に実際はどうだったかと聞くと、［図7］のような実態が浮き彫りになりました。

［図6］育休取得前に不安を感じたか

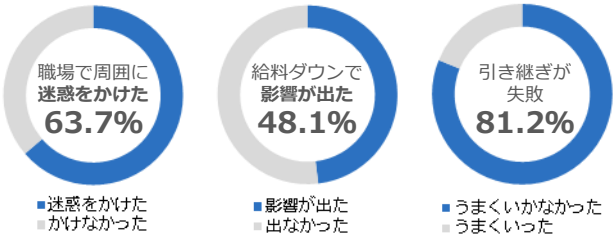
対象は休暇取得男性（n=484）



		(%)
1位	職場で周囲に迷惑をかけてしまうのではないか	37.8
2位	給料・手当が下がり生活に影響が出るのではないか	32.5
3位	自分しかわからない業務が多く引き継ぎがうまくいくかどうか	21.3

［図7］育休取得前に感じた不安の実態

対象者は各項目で不安と答えた育休取得男性
スコアは「あてはまる」＋「ややあてはまる」の合計値



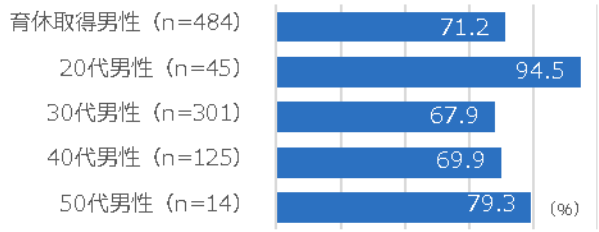
■ 不安を感じる育休制度、思いきって利用してみると満足度は高い

育休を取得した男性の71.2%が育休制度に対して「満足」と答えており、20代男性では94.5%と満足度が一層高くなっています［図8］。

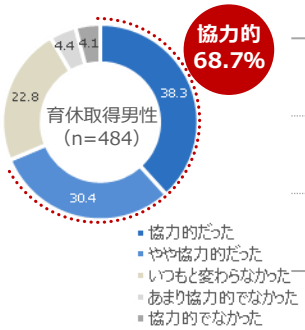
育休取得に対する職場の協力体制を聞くと、68.7%が「協力的だった」と答えています［図9］。

さらに育休を取得したことで、「妻の負担を理解できるようになった」（26.5%）、「子どもがいる社内の人へより配慮するようになった」（19.1%）など、意識の変化を実感したイクメンも少なくありません［図10］。

［図8］育休制度に対する満足



［図9］職場の協力体制



［図10］育休取得後に感じた変化

	(%)
妻の負担を理解できるようになった	26.5
子どもがいる社内の人へより配慮するようになった	19.1
子どもと一緒によく遊ぶようになった	17.8

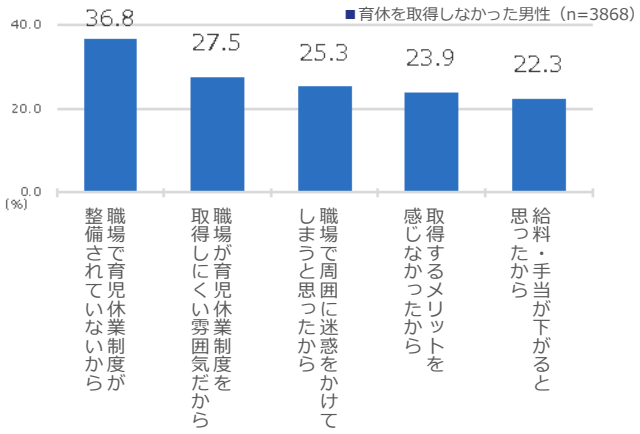
対象は育休取得男性484人

■ 「育休制度がない」企業がいまだ4割も

育休を取得しなかった男性3,868人にその理由を聞くと「職場で育児休業制度が整備されていない」（36.8%）が最も多く、育休制度のない企業が4割近くもありました。

「職場が育児休業制度を取得しにくい雰囲気」「職場で周囲に迷惑をかけてしまう」など、男性の育休の取得は職場の環境に大きく左右され、組織としての取り組みが不可欠といえそうです［図11］。

［図11］育休を取らなかった理由



〈日本の育休制度の実態〉

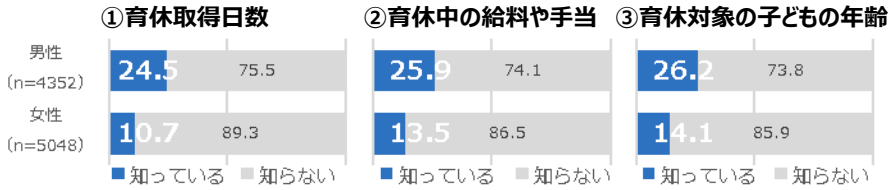
■ イクメン世代なのに関心がない!? 4人に3人は自分の会社の育休制度について「知らない」

組織としての取り組みが不可欠な育休取得。自身の勤務先の育休制度の実態はどうなっているのか、男性には自身の会社、女性には夫の会社の育休制度について聞いてみました。

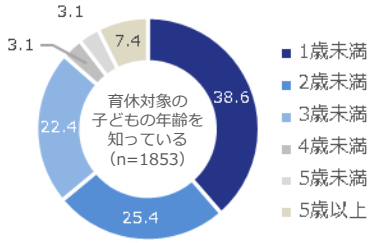
「育休取得日数」を知っているのは男性24.5%、女性10.7%、「育休中の給料や手当」については男性25.9%、女性13.5%、「育休対象の子どもの年齢」については男性26.2%、女性14.1%となり、いずれも「知らない」方が7割を超えています［図12］。育児をする世代でありながら、男性の育休制度に関心が低い様子がうかがえます。

育休対象の子どもの年齢を知っていると答えた1,853人にその年齢を聞くと、「1歳未満」（38.6%）と答えた人が1/3を占めています［図13］。

［図12］会社の育休制度の認知度



［図13］育休対象の子どもの年齢

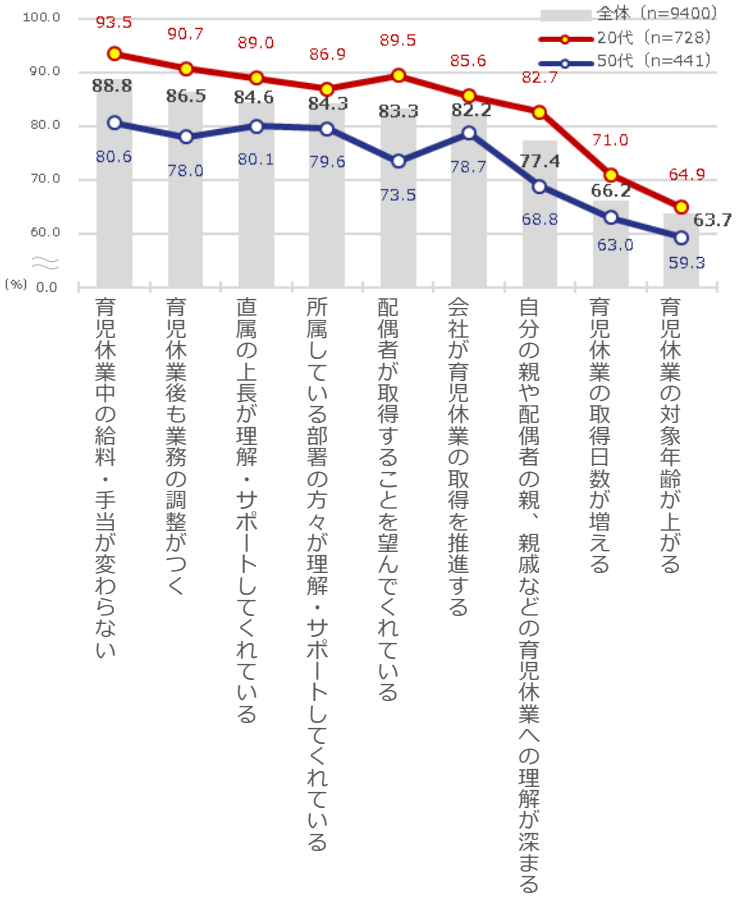


■ 男性の育休取得推進に欠かせないのは、「給料維持」「仕事の調整」「職場の理解」

どうすれば男性の育休取得が増えると思うか聞いたところ、「育児休業中の給料・手当が変わらない」（88.8%）が最多で、「育児休業後も業務の調整がつく」（86.5%）、「直属の上長が理解・サポートしてくれている」（84.6%）、「所属している部署の方々が理解・サポートしてくれている」（84.3%）などが上位に挙げられました。

これから育児が本格化する子育て世代の20代と、育児から開放される卒育世代の50代を比較すると、いずれも20代の方が意識が高くなっています［図14］。

［図14］男性の育休取得推進に必要なこと



調査概要

■実施時期 2019年7月17日（水）～ 7月24日（水）■調査手法 インターネット調査

■調査対象 全国47都道府県の小学生以下の子どもがいる20代～50代の男女9,400人

人口動態に基づきウエイトバック集計

※構成比（%）は小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%にならない場合があります。

積水ハウスの「イクメン休業」を取得した男性社員とその配偶者に聞く

積水ハウスの「イクメン休業白書」

■ 3歳未満の子どもがいる全男性社員を対象に、育児休業1カ月以上の完全取得を目指す積水ハウスの「イクメン休業」

「キッズ・ファースト企業」として子育てを応援する社会を先導する当社では、ダイバーシティ推進の取り組みを一層加速させるため、2018年9月より「男性社員1カ月以上の育児休業（イクメン休業）完全取得」を推進しています。これは、3歳未満の子どもを持つすべての男性社員が対象となり、子どもの誕生から3歳に達する日の前日までに1カ月以上の育児休業を取得するもので、最初の1カ月は有給とし、業務や家庭の都合との調整を図りやすいよう、最大で4分割での取得も可能としています。

■「イクメン休業」の満足度は、社員もその配偶者も9割超え 休業期間も「ちょうどいい」が過半数を占めるが、夫側と妻側で感じ方の違いも

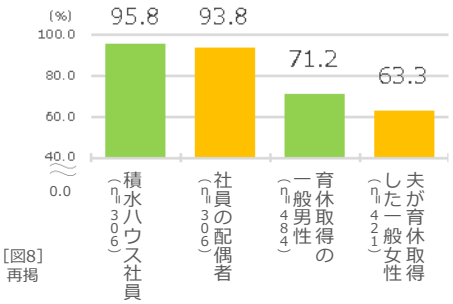
これまでにイクメン休業を取得した男性社員とその配偶者を対象にアンケート調査を行いました。

イクメン休業の評価を聞くと、取得した男性社員の95.8%、配偶者の93.8%が「満足」と答え［図①］、育休取得に対する組織の協力体制については、男性社員の91.5%が「協力的」と答えています［図②］。

今回の全国調査では、育休取得男性の制度への満足度は71.2%（P4［図8］参照）、職場の協力体制が協力的と答えた人は68.7%（P4［図9］参照）でしたが、当社のイクメン休業は本人の満足度も高く、さらに組織としての協力体制がとれていたと感じる社員が多いことがわかりました。

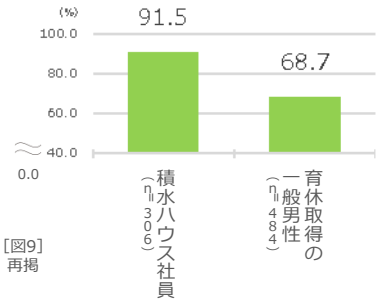
また、休業期間1カ月（31日）という長さについては、社員も配偶者も「ちょうど良かった」（社員60.1%、配偶者54.2%）が半数を占めています［図③］が、社員の4人に1人は「長い」(25.8%)、配偶者の3人に1人は「短い」(33.0%)と答えており、夫側と妻側で感じ方の違いもうかがえました。

［図①］「イクメン休業」の満足度



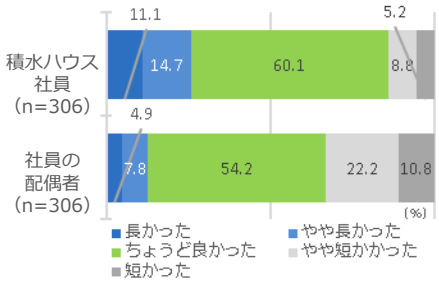
［図8］再掲

［図②］「イクメン休業」に対する組織の協力体制



［図9］再掲

［図③］有給31日間の「イクメン休業」の期間



調査概要 ■実施時期 **2019年8月** ■調査手法 インターネット調査

■調査対象 積水ハウス社員で2019年7月末時点で「イクメン休業」31日間取得完了している男性社員とその配偶者 ■回答者 306人

※構成比（%）は小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%にならない場合があります。